

---

# code・0

月下 氷尤

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

code・0

### 【Nコード】

N4332D

### 【作者名】

月下 氷尤

### 【あらすじ】

「私のプリン食べたでしょ!？」叫び声と共に盛大な爆発が俺を巻き込む。月下氷尤・ツキシタヒユウが送る壮絶痛快オリジナルファンタジー連載スタート!とりあえず読んでみてくださいまだ全然出てないですがさわり程度に世界観を覗いてください。

## code・0 プロローグ

漆黒

月明かりすらなく辺りは全てが消え去ってしまったかのように静まりかえっている。

いや。

もう消えてなくなってしまっているのかもしれない。  
そうだ、きっと世界は消えて無くなったんだ。

「ハア…ハッ」

短く呼吸を繰り返しながら考える。

無くなった世界。

消えた世界。

なら…どうして俺は逃げているんだろう…

だが、決して立ち止まる事はない

止まれば必ず追いつかれる

世界が無くなっても

何があっても絶対に立ち止まっちゃ駄目なんだ。

もうどれだけ走ったか分からない  
大分息があがってきている

「ッ!!」

不意に殺気を感じて後ろを振り返る

…しまった

胸中で後悔しながらも立ち止まって動けなくなる。

「許さない」

そう冷たく言い放つ影はゆっくりと近づいてくる。

ヤラレル

ニゲロ

本能が警告を発するが身体が制御出来ない感覚

頭と身体が別のモノになってしまった様な

リンクしていない感覚。

そんな曖昧な感覚なのに脳だけはやたらとハッキリしている。

恐怖だけが俺を襲う

目の前にいる影の手がゆっくりと近付いてくる。

闇の中の影

闇が黒だとすれば影は何色だろう…

馬鹿げた事を考えながら影を見やる

影と目が合った気がした

いや合っているのだ

影と

影のソイツと

「許さないから」影は何度も呟く  
まるで俺を殺す呪詛のように

「…でしょ」

影が何か言う

「た……でしょ」

次第にはっきりと

「私のプリン食べたでしょ!？」

ああ…俺は殺されるんだな…

プリンで。

巻き起こる爆発の中なんだか悲しくなって静かに目を閉じた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4332d/>

---

code・0

2011年1月3日19時37分発行